

## 第2章 地域の現況

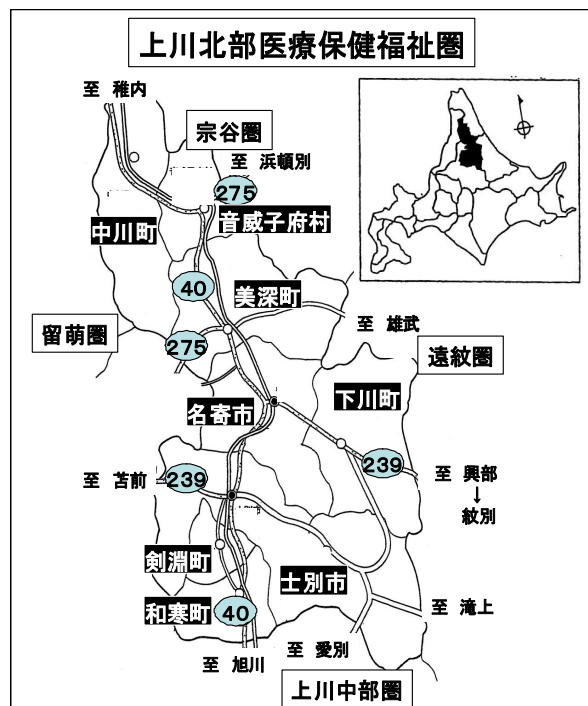
### 第1節 地勢と交通

#### 1 地理・地勢

- 天塩川流域を抱える上川北部圏域は、上川総合振興局管内の最北部に位置しています。合併と分離の変遷を経て、現在は士別市、名寄市、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町の2市5町1村で構成されています。平成17年4月に「市町村の合併の特例等に関する法律」が施行され、国と道は、広域的で効率的な行財政運営を図ることを目指して、地方分権に基づく自主的な市町村合併を推進してきました。

こうした中で、上川北部圏域では、平成17年9月に士別市と朝日町が合併して士別市に、平成18年3月に名寄市と風連町が合併して名寄市になりました。隣接する二次医療圏としては、南は上川中部、北に宗谷、西に留萌、東に遠紋の4圏域に接しており、4圏域の中心都市には、旭川市、稚内市、留萌市、紋別市があります。特に旭川市は道北の中心都市であり、行政、保健・医療・福祉などの各分野において当圏域と密接な関係にあります。

- 天塩岳道立自然公園をはじめとした数多くの自然が残されている上川北部圏域は、面積が4,197.18km<sup>2</sup>と全道の5%を占め、ほぼ福井県の面積に匹敵し、東西に55km、南北に140kmの広大な圏域となっています。



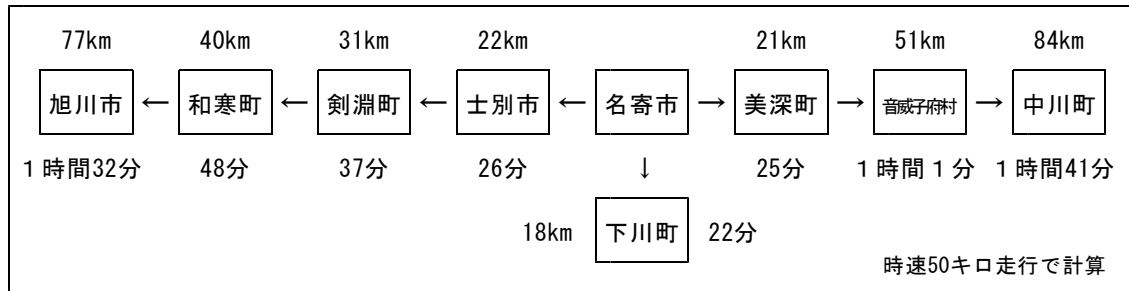
#### 2 気象・災害

- 上川北部圏域の気象は日本海側気候に属し、内陸部に位置していることから、冬季の寒さは非常に厳しい一方、夏季は真夏日を観測する日も多く、気温の年較差が大きく、また、道内でも雪の多い地帯となっています。
- 上川北部圏域は、以前、台風や集中豪雨による河川の氾濫が多く、家屋の流出や道路・橋梁の決壊、田畑の冠水埋没など災害が数多くありましたが、主要河川の治水事業が進められてきたことにより、最近では大きな水害の発生は見られていません。比較的自然災害の少ない地域であるといえますが、平成30年9月の北海道胆振東部地震においては、震度1～震度4を記録し、災害に対する備えは必要となっています。

#### 3 交通

- 上川北部圏域は、旭川市を起点とする国道40号線とJR宗谷本線が並行して稚内市まで縦貫しており、圏域内外を連絡する重要な幹線となっています。下川町方面は興部町を経て網走市に至る国道239号線で名寄市につながっています。名

寄市から各市町村までの車による移動距離と所要時間は次のとおりです。冬季間は積雪のため、約1.3～1.5倍の所要時間が必要です。



- 上川北部圏域の高速道路については、札幌・旭川と結ぶ道央自動車道路が「士別剣淵インターチェンジ」までつながっており、名寄市徳田から美深町まで高規格幹線道路が供用されていますが、士別・名寄間は一般道しかありません。
- 上川北部圏域における公共交通機関としては、鉄道は下川町を除く7市町村にJRの停車駅があり、圏域内外を連絡しています。また、都市間バスは名寄・札幌間を運行しています。圏域内を結ぶ公共交通機関としては、名士バス、JR北海道バス、士別軌道バス、道北バスが運行し、住民の交通手段として重要な役割を担っています。圏域内の市町村と札幌・旭川間のJRによる所要時間は次のとおりです。

	和寒町	剣淵町	士別市	名寄市	下川町	美深町	音威子府村	中川町
旭川	28分	57分	40分	54分	1時間 22分	1時間 15分	1時間 47分	2時間 19分
札幌	1時間 58分	2時間 22分	2時間 10分	2時間 24分	2時間 52分	2時間 45分	3時間 11分	3時間 50分

※特急利用による最短時間で計算

※剣淵町は、剣淵・旭川間は快速列車、旭川・札幌間は特急利用

※下川町は、下川・名寄間はバス（所要時間28分）、名寄・旭川・札幌間は特急利用

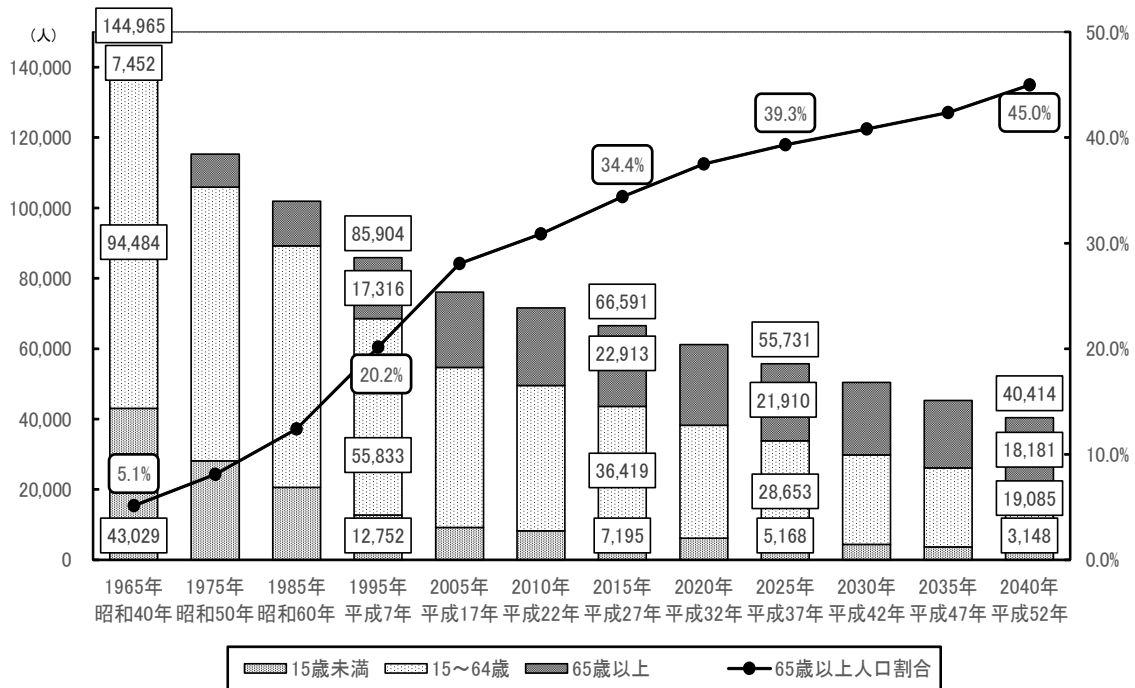
## 第2節 人口の推移

### 1 人口構造

(人口)

- 平成27年国勢調査では、上川北部圏域の総人口は66,591人で、北海道の総人口の1.2%を占めています。国勢調査による人口の推移では、出生数の低下による自然減と人口の流出による社会減により、昭和40年以降減少が続いています。
- 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成30年3月推計）では、上川北部圏域の総人口は平成37年（2025年）には約55,700人、平成52年（2040年）には約40,400人と推計されています。
- 上川北部圏域は、面積が北海道の5%を占めていますが、総人口は1.2%に過ぎません。人口密度が低く、集積度も低いことから、医療資源を含めた社会資源を地域に均等に整備することが困難な状況にあります。

【上川北部圏域の人口推移と将来人口推計】

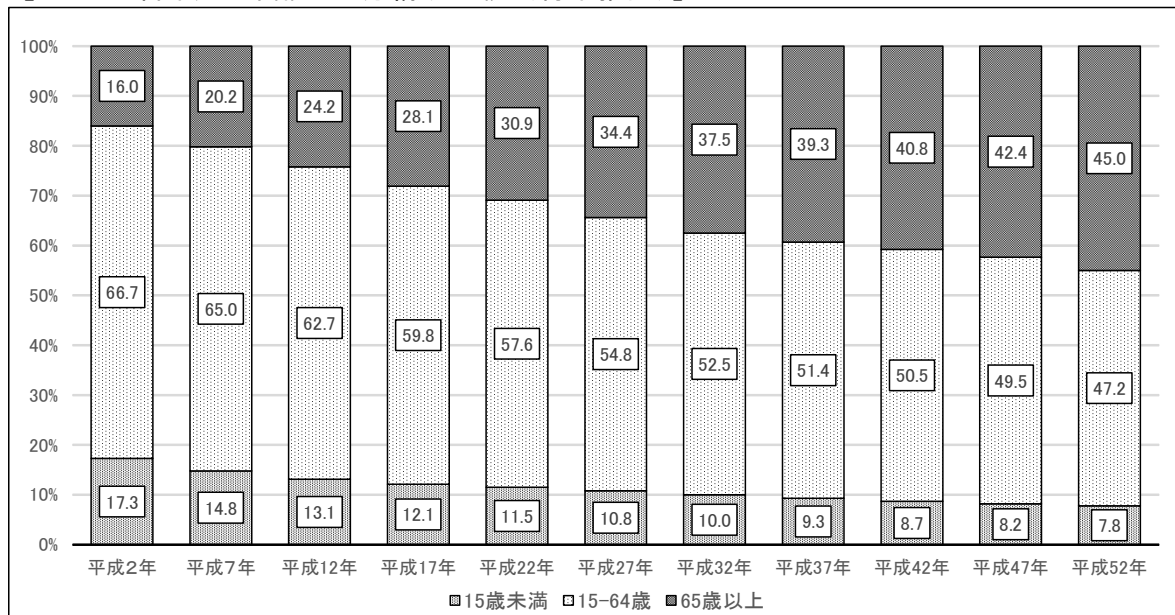


\* 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計

（年齢三区分別構成割合）

- 上川北部圏域では、平成7年国勢調査において初めて65歳以上人口割合が年少人口割合（15歳未満）を上回りました。65歳以上人口割合は年々増加しており、平成27年は34.4%となっています。
- 将来推計人口において、年少人口割合及び生産年齢人口割合（15~64歳）は減少傾向にある一方で、65歳以上人口割合は増加する傾向にあり、平成37年（2025年）には39.3%、平成52年（2040年）には45.0%になると推計されています。

【上川北部圏域の年齢三区分別構成比較（将来推計）】



\* 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計

(世帯数)

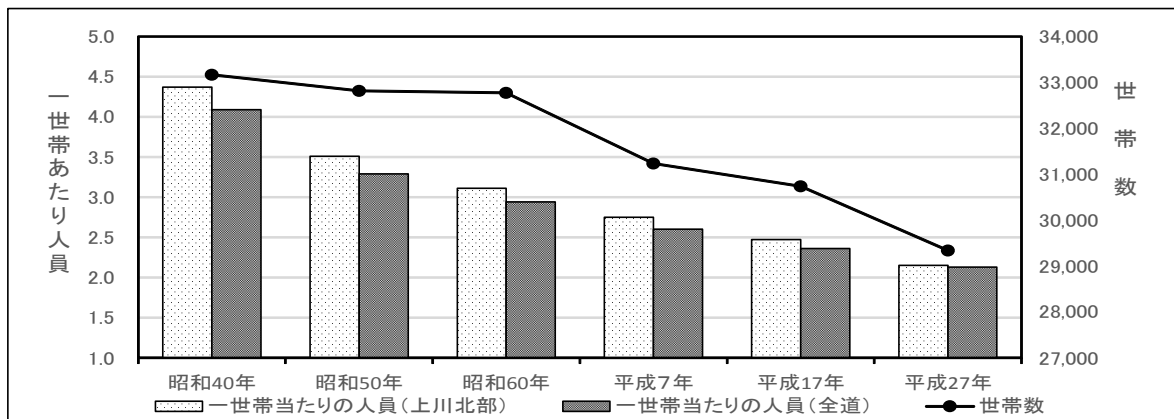
- 平成27年国勢調査では、上川北部圏域の一般世帯数は29,340世帯となっており、一世帯あたりの人員は平均2.15人です。昭和40年の4.37人と比較すると、大きく減少しています。その要因としては、核家族化の進行により、高齢夫婦世帯・高齢単身世帯の割合が増加したことが考えられます。

【上川北部圏域の世帯数及び一世帯あたりの人員の推移】

	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年	平成27年
世帯数(上川北部)	33,170	32,819	32,776	31,235	30,735	29,340
一世帯あたりの人員(上川北部)	4.37	3.51	3.11	2.75	2.47	2.15
一世帯あたりの人員(全道)	4.09	3.29	2.94	2.60	2.36	2.13

\* 国勢調査

【上川北部圏域の世帯数及び一世帯あたり人員の推移】

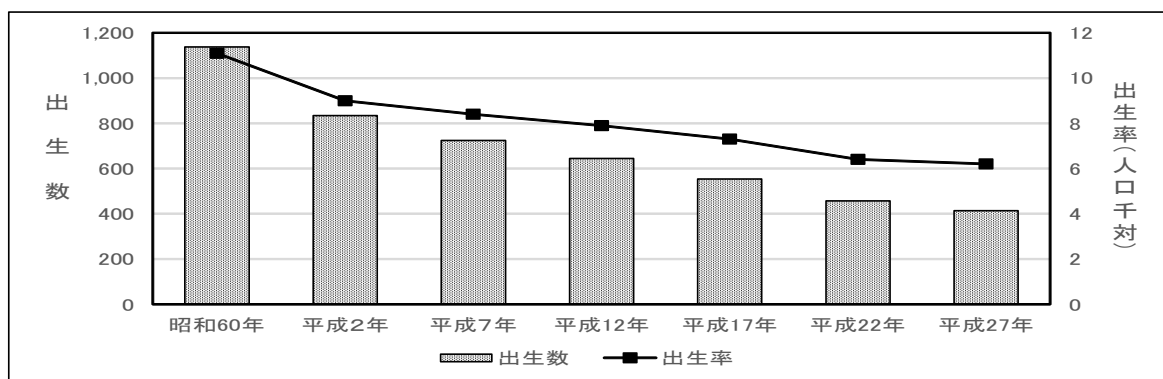


## 2 人口動態

(出生数及び出生率)

- 上川北部圏域における平成27年の出生数は413人、出生率(人口千対)は6.2と減少が続いており、昭和60年と比較すると63.7%の減となっており、減少傾向はたいへん顕著なものになっています。
- 上川北部圏域における平成27年の合計特殊出生率\*は1.47であり、全道(1.31)を上回り、全国(1.45)とほぼ同じ水準となっています。

【上川北部圏域の出生数及び出生率の推移】



\* 合計特殊出生率：一人の女性が生涯に産む子どもの数に近似する指標

【上川北部圏域の出生数及び出生率の推移】

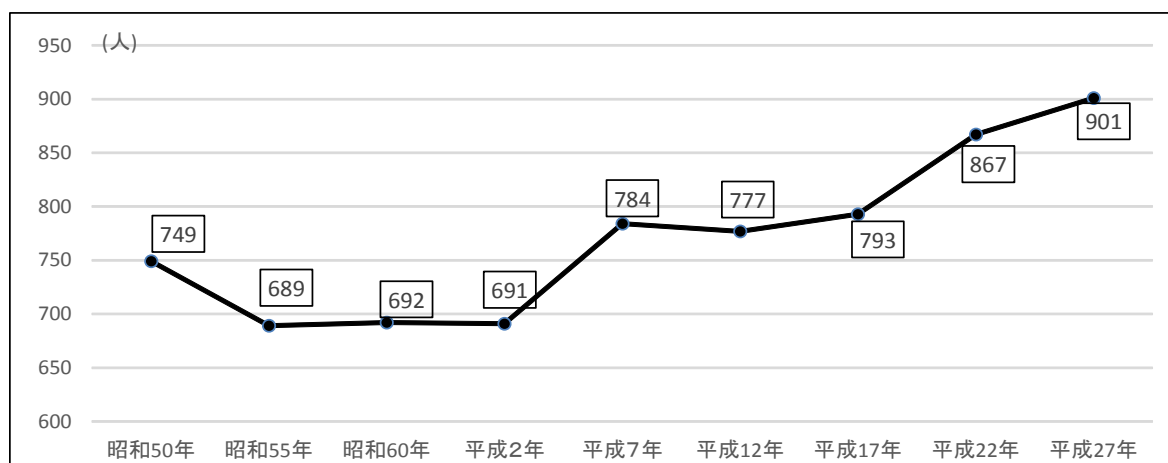
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
出生数	1,138	834	724	645	554	457	413
出生率	11.1	9.0	9.0	7.9	7.3	6.4	6.2

\* 人口動態統計及び北海道保健統計年報

(死亡数)

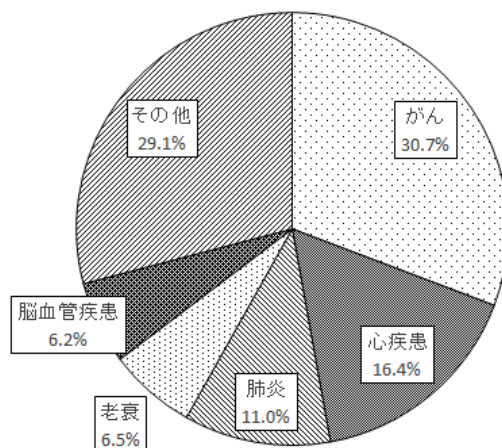
- 上川北部圏域における平成27年の死亡数は901人です。高齢化の進展に伴い、死亡数は増加傾向にあります。

【上川北部圏域における死亡数の推移】



- 上川北部圏域における平成27年の死因を見ると、30.7%ががんのために死亡しており、心疾患の16.4%、肺炎の11.0%が続いています。

【上川北部圏域における主な死因別割合（平成27年）】



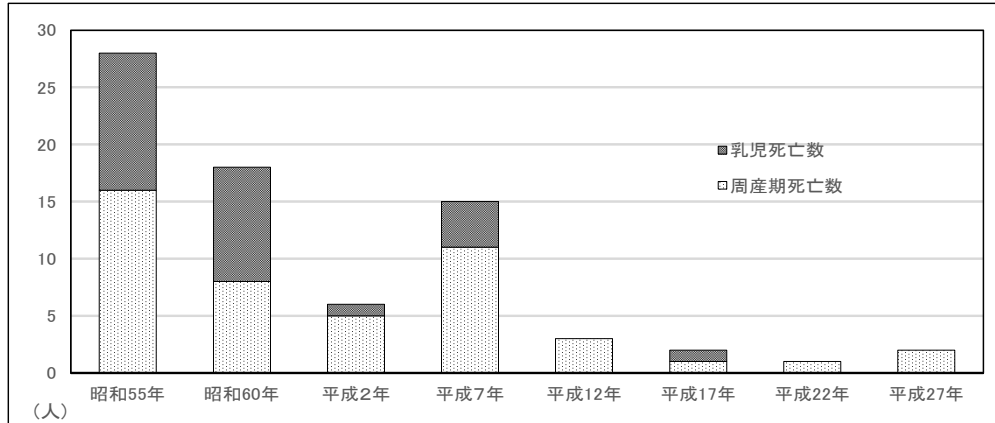
\* 道北地域保健情報年報

- 上川北部圏域における周産期死亡\*1数、乳児死亡\*2数は減少傾向にあり、平成27年の周産期死亡数は2人、乳児死亡数は0人となっています。

\* 1 周産期死亡：妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡（生後7日未満の死亡）をいう。

\* 2 乳児死亡：生後1年未満の死亡をいう。

## 【上川北部圏域における周産期死亡数と乳児死亡数の推移】



\* 道北地域保健情報年報

- 上川北部圏域では、平成27年の死亡者の85.2%に当たる759人が病院で、7.0%に当たる63人が自宅で、死亡しています。

## 【上川北部圏域の死亡場所別死亡数（平成27年）】

	総数	病院	診療所	介護老人 保健施設	老人 ホーム	自宅	その他
総数	901	759	26	1	36	63	16
(再掲)悪性新生物	277	256	6	-	5	10	-
(再掲)心疾患	148	114	6	-	6	21	1
(再掲)脳血管疾患	56	50	1	-	2	3	-

\* 道北地域保健情報年報

## 第3節 住民の健康状態

## 1 生活習慣の状況

## (運動習慣の状況) \*

- 北海道では、運動習慣がある（週2回以上30分以上の持続運動で1年以上経過している）と回答した者の割合は、成人男性では36.4%、成人女性では30.6%となっています。

## (食生活の状況) \*

- 北海道では、食生活に気をつけていると回答した者の割合は、成人男性では56.2%、成人女性では68.4%となっています。
- 食塩摂取量については、成人男性では平均11.0g、成人女性では平均9.2gとなっています。

## (休養) \*

- 北海道では、睡眠による休養が「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合は、成人男性では17.5%、成人女性では22.2%となっています。

\* 健康づくり道民調査（平成28年）

(飲酒の状況) \*1

- 北海道では、生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている者（1日当たりの純アルコール摂取量が男性で約40g以上、女性20g以上）の割合は、男性18.2%、女性では12.0%となっています。

(喫煙の状況)

- 北海道では、「毎日吸っている」または「時々吸う日がある」者の割合は、成人男性では34.6%（全国31.1%）、成人女性では16.1%（全国9.5%）と、男女とも全国平均と比較して高い状況です。なお、成人男性・成人女性とも減少傾向にあります。\*2
- 喫煙経験のある未成年者の割合（過去1か月間）は、中学1年生の男子では0.5%、女子では0.2%、高校3年生の男子では0.8%、女子では0.5%となっています。
- 日常生活で受動喫煙の機会を有する者の割合は、公共施設8.9%、家庭18.4%、職場25.2%、飲食店41.7%となっています。

【成人の喫煙率】

	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成28年	令和3年
男性	53.5%	49.9%	43.9%	35.0%	39.2%	34.6%	31.7%
女性	24.3%	22.2%	20.6%	16.2%	17.8%	16.1%	14.9%

\* 国民生活基礎調査

【未成年者の喫煙率】

		平成24年	平成29年
中学1年生	男子	0.9%	0.5%
	女子	0.6%	0.2%
高校3年生	男子	2.9%	0.8%
	女子	1.7%	0.5%

\* 北海道保健福祉部地域保健課調

【日常生活で受動喫煙の機会を有する者の割合】

	平成23年	平成28年
公共施設	15.5%	8.9%
家庭	13.2%	18.4%
職場	36.7%	25.2%
飲食店	44.3%	41.7%

\* 北海道健康増進計画

## 2 生活習慣病の有病者・予備群の数等

(高血圧の状況) \*1

- 北海道では、高血圧症有病者\*3の割合は、成人男性57.1%、成人女性43.5%

\*1 健康づくり道民調査（平成28年）

\*2 国民生活基礎調査（平成28年）

\*3 収縮期140mmHg以上、または拡張期90mmHg以上、降圧剤服薬者。

であり、男性では50歳代以降、女性では60歳代以降の各年代で50%を超えています。

正常高値血圧者\*<sub>1</sub>の割合は、成人男性24.2%、成人女性17.9%となっています。

- 平成28年の特定健診等結果状況では、上川北部圏域の高血圧症有病者の割合は、50.0%となっています。

#### (脂質異常の状況) \*<sub>2</sub>

- 脂質異常症について、北海道では、総コレステロール240mg/dl以上\*<sub>3</sub>の者の割合は、成人男性では9.5%、成人女性では18.0%であり、LDLコレステロール160mg/dl以上\*<sub>3</sub>の者の割合は、成人男性5.8%、成人女性8.3%となっています。

#### (糖尿病の状況) \*<sub>2</sub>

- 北海道の平成28年度特定健診のHbA1c値\*<sub>4</sub>「6.5%以上（受診勧奨判定値）」該当者は、男性は3万3,521人（9.0%）、女性は1万3,762人（4.1%）であり、「5.6%以上6.5%未満（保健指導判定値）」該当者は、男性は13万3,320人（35.8%）、女性は12万2,229人（36.2%）となっています。\*<sub>5</sub>

また、医療機関や健診で糖尿病と言われたことがある者（20歳以上）のうち、糖尿病治療継続者の割合は、59.8%となっています。\*<sub>2</sub>

- 上川北部圏域の平成28年度特定健診のHbA1c値「6.5%以上」該当者は8.5%、「治療中」の者は9.6%となっています。

#### (肥満の状況) \*<sub>2</sub>、\*<sub>6</sub>

- 北海道では、男性の肥満者（BMI25.0以上）の割合は、20～60歳代の区分では40.9%であり、全国（31.6%）と比較して高い状況です。

また、女性肥満者（BMI25.0以上）の割合は、40～60歳代の区分では25.3%であり、全国（20.5%）と比較してやや高い状況です。

## 第4節 患者の受療動向等

### 1 患者の受療動向\*<sub>7</sub>

- 平成28年度の受療動向について、第二次医療圏ごとのデータを見ると、上川北部圏域の入院自給率は74.7%（全道90.5%）、外来自給率は88.2%（全道96.2%）と、入院、外来とも自給率は北海道平均を下回っています。

- 上川北部圏域に隣接する上川中部、宗谷、遠紋、留萌の4つの圏域と、北海道で最も人口が集積している札幌圏域と上川中部圏域を見ると、札幌圏域と上川中部圏域の入院・外来の自給率は他の圏域と比較して突出して高くなっています。

上川北部圏域で入院・外来とも自給率が北海道平均を下回っているのは、全道

\*<sub>1</sub> 収縮期130mmHg以上140mmHg未満、または拡張期85mmHg以上90mmHg未満の者で、降圧剤服薬者を除く。

\*<sub>2</sub> 健康づくり道民調査（平成28年）

\*<sub>3</sub> 薬を服用している者を含む。

\*<sub>4</sub> HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）：過去1～3か月の血糖値を反映した血糖値のコントロール指標。

\*<sub>5</sub> 厚生労働省「第2回NDBオープンデータ」（平成29年）

\*<sub>6</sub> 国民健康・栄養調査（平成27年）

\*<sub>7</sub> 平成28年4月～平成29年3月診療分のレセプトデータ（国民健康保険、退職国保、後期高齢者医療制度）による。



平均が札幌圏域と上川中部圏域の自給率に大きく影響していることと、上川北部圏域が医療資源が豊富な上川中部圏域に隣接していることが要因として考えられます。

【入院患者の受療動向】

患者居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比			
		上川中部	札幌	北空知	その他
上川北部	74.7%	20.76%	3.26%	0.52%	0.73%
上川中部	98.0%	1.17%	0.42%	0.24%	0.19%
宗谷	57.7%	21.59%	10.55%	9.37%	0.75%
遠紋	69.4%	13.15%	8.75%	6.02%	2.67%
留萌	63.1%	14.50%	13.84%	5.37%	3.21%
札幌	99.1%	0.28%	0.25%	0.11%	0.30%

【外来患者の受療動向】

患者居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比			
		上川中部	札幌	宗谷	その他
上川北部	88.2%	10.54%	1.06%	0.06%	0.17%
上川中部	99.2%	0.41%	0.09%	0.08%	0.18%
宗谷	86.3%	5.29%	4.22%	3.17%	1.02%
遠紋	86.0%	7.93%	2.50%	1.94%	1.61%
留萌	88.8%	4.47%	4.29%	0.97%	1.51%
札幌	99.4%	0.26%	0.26%	0.13%	0.19%

## 2 患者数

### (1) 1日平均外来患者数

○ 平成28年の病院報告によると、北海道における人口10万対1日平均外来患者数は1,438.3人（全国1,068.1人）で、このうち、「一般病院」は1,366人（全国1,023人）、「精神科病院」は71.9人（全国45.6人）、となっており、全国平均値を上回っています。

### (2) 1日平均在院患者数

○ 平成28年の病院報告によると、北海道における人口10万対1日平均在院患者数は、病床の種類別にみると、「一般病床」725.7人（全国528.2人）、「療養病床」359.4人（全国228.3人）「精神病床」326.5人（全国227.4人）で、いずれも全国平均値を上回っています。

## 3 病床利用率

○ 平成28年の病院報告によると、北海道では、病院の病床利用率は79.1%（全国80.1%）であり、病床の種類別にみると、「一般病床」は73.7%（全国75.2%）、「療養病床」は86.1%（全国88.2%）となっており、全国平均値を下回っています。

- 上川北部圏域の平成28年の病床利用率は72.1%であり、「一般病床」は66.8%、「療養病床」は78.2%で、全国、全道の平均値を下回っています。

#### 4 病床種類別の平均在院日数

- 平成28年の病院報告によると、北海道では、病院の平均在院日数は32.1日（全国28.5日）で、病床の種類別にみると、「一般病床」は17.5日（全国16.2日）、「療養病床」215.6日（全国152.2日）となっており、全国平均値を上回っています。
- 上川北部圏域の平成28年の平均在院日数は26.9日であり、「一般病床」は15.4日、「療養病床」は166.6日となっており、「療養病床」が全国平均値を上回っているほかは、全国、全道の平均値を下回っています。

### 第5節 医療提供施設の状況

#### 1 病院

- 上川北部圏域における病院数は平成元年から変化がなく、平成29年10月1日現在8か所となっています。  
また、総病床数は962床で、平成4年の1,443床をピークとして減少しています。
- 当圏域の平成27年の人口10万対病院数は、12.0であり、全道平均の10.5を上回っています。

【上川北部圏域における病床数の推移】

	総数	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
平成元年	1,387	1,041	0	232	82	32
平成2年	1,381	1,041	0	232	76	32
平成3年	1,381	1,041	0	232	76	32
平成4年	1,443	1,118	0	232	76	17
平成5年	1,426	1,118	0	232	76	0
平成6年	1,413	1,118	0	232	63	0
平成10年	1,413	1,095	23	232	63	0
平成11年	1,363	1,045	23	232	63	0
平成12年	1,344	843	210	232	55	4
平成14年	1,289	805	248	232	-	4
平成15年	1,244	774	301	165	-	4
平成16年	1,202	665	368	165	-	4
平成18年	1,202	709	324	165	-	4
平成19年	1,194	724	301	165	-	4
平成20年	1,154	684	301	165	-	4
平成23年	1,123	663	291	165	-	4
平成26年	1,013	663	291	55	-	4
平成27年	1,013	653	301	55	-	4
平成28年	993	575	359	55	-	4
平成29年	962	544	359	55	-	4

\*北海道保健統計年報、名寄保健所調（各年10月1日現在）により病床数に増減のある年次について記載

平成15年以降の病床数減の主な理由は次のとおりです。

- 15年：病床区分の届出により一般病床（31床減）、療養病床（53床増）の増減及び自治体病院の精神病床（67床減）で総病床45床減
- 16年：国立療養所の一般病床（109床）から療養病床（67床）への転換で総病床42床減
- 18年：民間病院の療養病床（44床減）から一般病床（44床増）への転換
- 19年：自治体病院の療養病床（23床減）から一般病床（15床増）への転換で総病床8床減
- 20年：自治体病院の一般病床廃止で40床減
- 23年：自治体病院の一般病床廃止（21床減）と療養病床廃止（10床減）で総病床31床減
- 26年：自治体病院の精神病床廃止で110床減
- 27年：自治体病院の一般病床（10床減）から療養病床（10床増）へ転換
- 28年：自治体病院の一般病床廃止（20床減）及び一般病床（58床減）から療養病床（58床増）へ転換で総病床数20床減
- 29年：自治体病院の一般病床廃止で31床減

## 2 診療所

- 上川北部圏域における一般診療所数は、平成29年10月1日現在では、無床・有床合わせて37か所となっています。なお、一般診療所数には、診療所として届け出のある市町村保健（福祉）センターや特別養護老人ホーム等が含まれています。
- 全道的には無床診療所が増加し、有床診療所が減少していますが、当圏域では平成22年からほぼ一定で推移しています。
- 平成27年の無床と有床を合わせた診療所数を人口10万対で見ると、全道の62.6に対し、当圏域は58.6と低くなっています。

### 【一般診療所数の推移】

	平成12年	平成17年	平成22年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
有床診療所	10	9	5	4	2	4	4	3
無床診療所	32	29	37	36	36	35	35	34

\* 北海道保健統計年報、名寄保健所調

- 上川北部圏域における歯科診療所数は、平成30年10月1日現在で32か所となっています。32の歯科診療所の他に歯科を標ぼうしている一般診療所が4施設あります。  
また、歯科を標ぼうしている病院が2施設あり、計38施設で歯科診療を実施しています。
- 歯科診療所数は全道、当圏域ともほぼ一定で推移しています。
- 平成30年の歯科診療所数を人口10万対で見ると、全道の55.0に対し、当圏域は50.7と低くなっています。

## 【歯科診療所数の推移】

	平成12年	平成17年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
全 道	2,910	3,025	3,020	2,999	3,014	3,003	2,978	2,983
上川北部	36	37	36	37	37	38	37	38
	平成28年	平成29年	平成30年					
全 道	2,968	2,934	2,905					
上川北部	36	34	32					

\* 北海道保健統計年報、名寄保健所調

## 3 助産所

- 上川北部圏域の助産所は平成29年12月1日現在2か所ありますが、分娩を取り扱っている助産所はありません。

## 4 薬 局

- 上川北部圏域における薬局数は、平成30年3月31日現在、26か所となっています。
- 薬局数は、全道では増加傾向から近年鈍化していますが、当圏域ではほぼ横ばいとなっています。

## 【薬局数の推移】

	平成12年	平成17年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
全 道	1,831	2,101	2,261	2,265	2,293	2,321	2,341	2,352
上川北部	36	37	24	24	26	26	29	28

\* 北海道保健福祉部医療政策局医療業務課調及び北海道保健統計年報

## 5 訪問看護ステーション

- 上川北部圏域における訪問看護ステーション数は、平成30年4月1日現在、4か所となっています。
- 訪問看護ステーションは、全道では増加傾向が続いていますが、当圏域では横ばいとなっています。

## 【訪問看護ステーション数の推移】

	平成12年	平成17年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
全 道	256	259	271	285	304	334	367	403
上川北部	1	3	3	3	3	3	4	4

\* 北海道保健福祉部福祉局施設運営指導課調、名寄保健所調

\* 指定居宅サービス事業所（訪問看護）※保険医療機関の「みなし指定事業所」を除く。

## 第6節 医療従事者の年次推移

## 1 医師・歯科医師・薬剤師の状況

- 上川北部圏域においては、医師、歯科医師、薬剤師ともに多少の増減はありますが、横ばいで推移しています。
- 平成28年の医療施設従事医師数を人口10万対で見ると、全道の238.3に対し当

圏域は182.5と低く、地域の医師不足は深刻であり、医師確保は重要な課題となっています。

【医師・歯科医師・薬剤師の状況】 (人)

	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
医師	115	116	120	121	115	119	125
歯科医師	42	45	43	44	45	44	45
薬剤師	86	86	78	84	85	86	99

\* 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(隔年12月末現在)

## 2 看護師・准看護師の状況

- 上川北部圏域においては、平成28年には看護師は626人、准看護師は288人となっており、人口10万人当たりの就業者数(常勤換算)は、看護師においては全道平均を下回っていますが、准看護師においては全道平均を上回っています。
- 社会の高齢化により看護職員の需要は増加する一方、少子化などにより人材は不足しており、地域によっては確保に困難をきたしています。

【看護師・准看護師の状況】 (人)

	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
看護師	474	470	482	513	550	602	626
准看護師	410	397	376	368	360	331	288

\* 「看護師等従事者届」(隔年12月末現在)

## 3 保健師・助産師の状況

- 上川北部圏域においては、保健師及び助産師は、一時減少しましたが平成28年は増加しています。

【保健師・助産師の状況】 (人)

	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
保健師	73	73	84	80	72	72	94
助産師	25	16	21	24	22	21	26

\* 「看護師等従事者届」(隔年12月末現在)

## 4 歯科衛生士・歯科技工士の状況

- 上川北部圏域においては、歯科衛生士は、横ばいで推移していましたが、平成28年に増加しています。

また、歯科技工士は横ばいで推移していましたが、平成26年以降減少しています。

## 【歯科衛生士・歯科技工士の状況】

(人)

	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
歯科衛生士	31	38	35	38	38	37	43
歯科技工士	17	17	17	16	16	13	11

\* 「歯科衛生士従事者届」(各年12月末現在)

## 5 主な病院従事者の状況

- 上川北部圏域における主な医療従事者は、下表のとおりになっています。  
理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士は増加傾向にあり、診療放射線技師は減少しています。

## 【主な病院従事者の状況(常勤換算)】

(人)

	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
理学療法士	21.0	20.9	27.8	31.6
作業療法士	10.0	9.0	14.0	16.0
医療社会事業従事者*	6.8	4.5	1.8	3.0
管理栄養士	10.0	15.0	14.0	14.0
栄養士	3.9	2.9	2.0	2.0
診療放射線技師	24.9	25.0	29.0	8.0
臨床検査技師・衛生検査技師	30.5	30.5	33.0	33.6
視能訓練士	3.0	4.0	4.6	4.0
言語聴覚士	2.0	5.0	6.0	6.0
臨床工学技師	11.0	13.0	13.0	17.0
義肢装具士	5.0	6.0	0.0	0.0

\* 「病院報告(従事者票)」(各年10月末現在)

\* 医療社会事業従事者：患者やその家族に対し疾病の治療等の妨げとなる経済的、精神的な諸問題等について相談、指導を担当する者(例えば、生活相談員、保護相談員、ケースワーカー、セラピスト、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等)